

知的障害のある生徒が意欲的に学べる授業 ～社会自立し、自分らしく生きていける大人になるために～

鹿児島高等特別支援学校 教諭 染川加奈子

はじめに

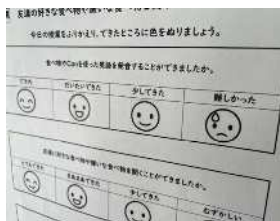
本校は、障害の程度が比較的軽度の知的障害のある生徒が社会自立に向けて働く力を身に付けるための職業教育を中心とした授業を行っている鹿児島県で唯一の高等特別支援学校です。日々、生徒の自己肯定感や積極的に学びに向かう力をより高める必要があると感じています。1単位授業の中で少しでも達成感を味わい、その積み重ねで自己肯定感を上げてほしいという思いで職員一丸となり、日々努力しているところです。今回は私の専門教科である英語と各教科を合わせた指導である作業学習の授業実践を紹介します。

分かる・できる・楽しいが味わえる授業

本校には、これまでの英語の授業での「分からなかった」、「できなかった」の積み重ねで英語が苦手な生徒、好きではない生徒が多くいます。少しでも苦手意識を取り除き学習意欲を高めるためには、1単位授業の中で、「分かった」、「楽しかった」を味わわせることが、大切だと考えます。

高特支版CAN-DOリストの活用

授業の導入と振り返りでは「CAN-DOリスト」を活用しています。導入では、英語を用いて何ができるか、見通しや期待感をもてるようにします。振り返りでは、リストで何ができるようになったかをチェックして、達成感を味わうことができるようにします。



【開発したCAN-DOリストを活用】

様々な感覚を使った授業

もちろん、リストがあっても授業がおもしろくなくては苦手を好きに変えることはおろか、意欲的に学ばせることはできません。短いスパンでゲームや動きを取り入れ、授業にメリハリを付けることも意欲的に学ぶ鍵だと思います。そうすることで、生徒たちは、「楽しい」「分かった」「できた」「あっという間に授業が終わった」と意欲的な姿勢を見せてくれます。



【グループで助け合いながら文章を完成させる姿】

生徒が主役の学び

作業学習は本校の中核をなす授業と言っても過言ではありません。作業班は、8班から構成されており、職員は、できるだけ生徒が主体的、意欲的に取り組めるようにサポートしています。ここでは、接客・接客班の学びを紹介します。

生徒によるドリンク開発、カフェの運営

接客・接客班では、より実践的な学習をするために校内でカフェを開店します。職員は、カフェの運営ができるだけ生徒主体で進められるように支援していきます。全体の指示や確認は店長（生徒）が行い、メニューも生徒同士の話し合いで決めます。その後、メニューを試作・試飲し、さらに、意見を交わします。そうすることで、生徒たちが自分たちで運営するカフェという意識が高まり、積極的にポスターを作成したり、店内の飾り付けをしたり、看板を描いたり、自分たちで役割を決めて取り組むことができるようになっていきます。生徒を主役にすることで、意欲が高まり、達成感へとつながっていくと考えます。



【生徒が発案した新メニューの紹介】

相互評価による授業

喫茶サービスの技能検定や大会にも取り組んでいます。練習では、生徒同士が相互評価することも効果的です。相手に分かりやすい言葉で伝える力を身につけるためにも、付箋に書いて、お互いに伝え合う活動をよく取り入れています。そうすることで、技能はもちろん、表現力やコミュニケーション力を高められると考えます。

おわりに

本校の校訓は「学び合う、高め合う、助け合う」です。これからも小さな達成感の積み重ねが、生徒の自己肯定感を高め、自分らしく、たくましく生きていく力となると信じて、生徒が学びたいようになる仕掛けをつくり、生徒の主体性を重視した授業を提供できるように日々研鑽したいと思います。